

甲斐国千年の都

山梨県指定史跡



笛吹市

岡・銚子塚古墳

前方後円墳

4世紀後半の古墳時代なかば
強大な力をもつ王が現れ、八代町岡の地に
巨大な墓が造られた

甲斐の國造りに
向つて

くに
づく



PHOTO

岡・銚子塚古墳全景写真
(右には盃塚古墳)

千年の都に息づく遺跡

前方後円墳

ヤマト(奈良)の大王の支配が始まった…
歴史探索の旅に出かけよう

Q 前方後円墳

日本最古の古墳は奈良県桜井市にある「箸墓古墳」だと考えられています。三世紀中頃に築かれた墳丘の長さが280mもある巨大な前方後円墳で、邪馬台国の女王「卑弥呼」の墓ではないか、とも言われます。

一方、山梨県最古の古墳は甲府市下曾根にある「小平沢古墳」で、四世紀中頃に造られた全長45mの前方後方墳です。前も後も四角形をした特殊な古墳です。箸墓古墳と同じ形の前方後円墳で山梨県最大の古墳が、やはり甲府市下曾根の県立考古博物館西にある「甲斐銚子塚古墳」です。その全長

は周囲の堀(周溝)まで含め189mあり、東日本有数の大きさです。東隣りの直径72mの円墳「丸山塚古墳」(県下最大の円墳)ともども四世紀中頃の後半に造られたと考えられています。

笛吹市は甲府市下曾根町の古墳群地域の北東部に接しており、大小の古墳が数多くあることで知られており、市最大の前方後円墳が県指定史跡の「岡・銚子塚古墳」です。この古墳は甲斐銚子塚古墳より少し遅い四世紀の後半に造られました。周溝を含めた全体の長さは105mあります(墳丘長92m)。

Q 岡・銚子塚古墳

岡・銚子塚古墳は曾根丘陵の東端に連なる丘陵上の平坦地にあります。標高は422mで、東側を四ツ沢川、西側を大谷沢川が北西に開く深い谷を形成しています。

1991~93年の「八代町ふるさと公園」整備の際、併せて復元整備を実施することとなり、古墳整備のための情報を得るために、八代町教育委員会の手により発掘調査が行われました。

後円部は耕作によりすでに1mほど削られていきましたが、調査で葺き石の一部が発見され、斜面部が2段に築かれていたことが分かりました。前方部の墳丘は端から2~3m幅で葺き石が残り、やはり2段の築成を想定できる平坦面が斜面の一部で発見されました。

周溝の幅は後円部で11m、前方部側面で9m、前方部正面で2mありました。

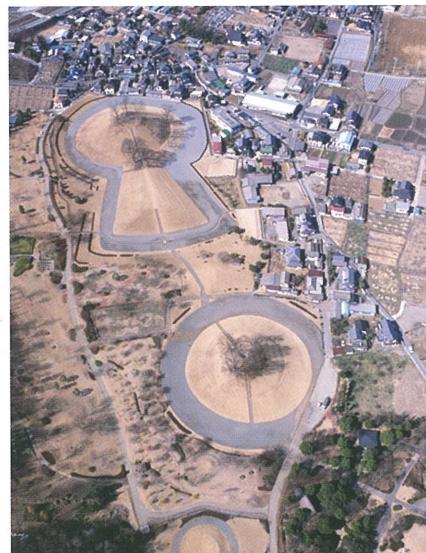
遺体を収めた主体部は後円部頂部で発見されました。墳丘上部が削り取られていたため、深さわずか5cmのところで、棺を覆った粘土の破片が見つかり、主体部の位置が分かりました。

残念ながら盗掘を受けて残りはわずかでしたが、主体部の長さは7.5m、幅が0.6mであることが判明しています。

この調査で発見された遺物には埴輪の破片、鉄製品、土器があります。墳丘が大きく壊されていたため詳しいことは不明ですが、円筒埴輪と器財埴輪が崩された土の中から見つかっています。

出土した鉄製品には鎌、剣、刀があります。これらは後円部の盗掘の跡から発見されたもので、本来は棺に納められていたと考えられます。

この調査により得られたデータに沿って岡・銚子塚古墳は築造されたときの姿に復元され、表面を芝で被って保存と公開が同時に行われることになりました。

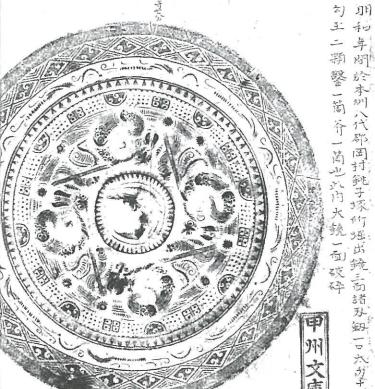


県立考古博物館の構内にある甲斐銚子塚古墳



「甲斐名勝志」に載っている 岡・跳子塚古墳から出土した鏡

整備前の岡・跳子塚古墳



銅鏡の拓本「黒龍鏡」
(直径約 23cm)



二神二獸鏡
(直径約 20cm)



出土した鉄製の鎌(長さ約8cm)

岡・跳子塚古墳は江戸後期の『甲斐国志』に記述があり、『甲斐名勝志』には銅鏡2枚の拓本が載せられています。銅鏡は江戸時代宝暦十三年に盗掘された跡に残されていた3枚のうち2つと見られ、ほかに折れた刀剣も置かれていたようです。

韓国にもある前方後円墳

前方後円墳は日本固有の形状と言われます。一方1983年、韓国南部の松鶴洞一号墳が前方後円墳であると紹介され、この特異な古墳の源流が朝鮮半島にある可能性が指摘されました。この古墳はのち3基の円墳が重なったものであることが判明しましたが、全羅南道などで10数基の前方後円墳が新たに発見されました。



後円部と前方部の境で見つかった葺き石

八代町の古墳

岡・銚子塚古墳のある地域は八代町岡の銚子原です。御坂山塊の枝尾根の稻山が北に下り、一旦傾斜を緩め比較的たいらになった台地の縁辺部に古墳は築かれています。

西の大谷沢川を挟んだ西の台地に約2Km離れて県指定史跡の方墳「竜塚古墳」も見えます。

この古墳の上から、山梨市、笛吹市街、甲府市、南アルプスの秀麗な山々が望め、晴れた日には絶景が楽しめます。



八幡塚古墳



帆立貝式古墳

前方後円墳のうち前方部が短く、帆立貝の貝殻のような形をした古墳のことをいいます。

八代町内には帆立貝式古墳だったと考えられる3つの古墳が知られています。増利の八幡塚古墳、北の狐塚古墳、団栗塚古墳です。

はち まん づか

八幡塚古墳

直径30数mの後円部と南側に短い前方部をもつ帆立貝式古墳と考えられます。浅川の扇状地端部に残る数少ない古墳の1つです。豊穴式石室、周溝をもつと思われますが、詳しいことは分かっていません。

きつね づか

狐塚古墳

狐塚古墳は北の中央自動車道にほど近い場所にあります。全長42mで後円部の直径は27mあります。昭和の初め前方部に土俵を造ろうとしたとき、鉄剣、鉄刀、鉄鉢などの武具が出土しています。

すんぐり づか

団栗塚古墳

明治時代の道造りで東側の前方部を削られ、現在は円墳のように見えます。工事のときに後円部に豊穴式の埋葬施設が2箇所見つかり、一方からは直刀2本、鉄鏃10本、土師器が、他方からは写真的銅鏡1枚、鉄刀1本、玉類が見つかっています。



山梨県笛吹市教育委員会文化財課

〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1 電話 055-261-3342



狐塚古墳

岡・銚子塚古墳 周辺散策地図

